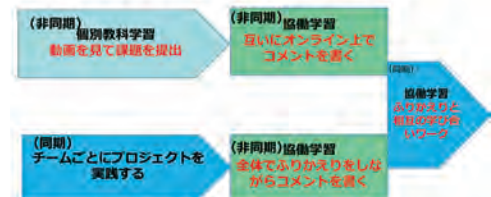


寺子屋方丈舎は、学校外の子どもの学びの場所として1999年に設立したフリースクールです。現在、7歳から21歳までの若者を受け入れています。

オンライン教科・プロジェクト反転学習



その事が大切です。目的志向型の学びを進める上で、オンライン学習は有効な手段です。

ここでは、参加することも含めて、自分でコントロールができるからです。大人のファシリテータが場を管理しているので、他者から攻撃されたり、不安にさせられる事もほとんどありません。

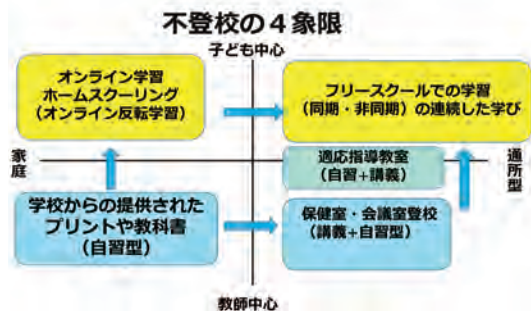
**「同期」＝一緒に学ぶ、
「非同期」＝自分で学ぶ**

個人で事前に行う学び（非同期）の学びと、一緒に学び合うことの組み合わせがオンライン学習の特徴でもあります。（左図）オンラインフリースクールでも、実際のフリースクールでも、私たちが大事にしていることは、

不登校からの学びとは

不登校の子どもの学習はどのようなに進めますか？学校に行かないのだから無理じゃないのか？という結論は少し早すぎます。現在、学校では保健室・会議室登校を、ほぼどこでも行っています。会津若松市には、不登校の子どものために通所型の施設適応指導教室もあります。下図のように、それぞれの学習の特徴をまとめました。縦軸の子ども中心か？教師中心か？は、教える側が講義的に一方的に教えるか、コミュニケーションをしながらの双方向の学習をするかの違いです。

今回は、オンライン学習を中心に説明します。オンラインでの学びは、教科学習のやり方について、事前配信動画で学んでおきます（非同期の家庭学習）。その後で、自分が学んだことからの気づき（メタ認知）や、不明



実際に経験した学びの徹底したふりかえりです。自分は、何に心が動かしれているのか？自分の関心のあり方がとても大事です。自分が関心あるものを、一人の力で理解できるか？目標実現のために解決できるか？の能力を得て行くことを協働学習（同期）で行います。自分に足りないところを、他者に補ってもらうのです。

不登校の子どもは、「学ぶ意欲」がない？のではなく、学び方を変えて行くことで、学習に参加しやすくなります。どの子どもも、自分が理解されて嫌な思いをする子はいませんし、他者の学び方からも多くのヒントをもらえます。

不登校でも、自分に対して否定的な感情を向けられないと主体的に学びに参加できます。大人は、子どもの認知学習構造を理解して、「学びのデザイン」をすることが、参加を容易にします。子どもが「絶対的な信頼」を感じられる環境を、その子に応じてつくることは、大人の力量です。

個々の子どもが「深い学び」を行う上で、個人学習＝「非同期」の学び、少人数の非同期の学びあいを行いながら行くのか？私は、そこにポイントがあると考えています。

特定非営利活動法人 寺子屋方丈舎

大関 勇気